

道徳教育に係る教員の指導力向上方策について

島 恒生 委員 提出資料

1 道徳教育や道徳の時間の特質の理解

(1) 道徳教育とは

自立した一人の人間として人生を他者とともによりよく生きる人格の形成を目指すもの
『今後の道徳教育の改善・充実方策について（報告）』平25.12より



一人一人の子供が、自分の心の中にある、よりよく生きようとする生き方（道徳的価値）の値打ちに気付き、自信をもって生きていこうとする意欲や態度を養う。

したがって、プラス志向の考え方が大切。

- 「行い」と「心の中」。道徳教育は、「心の中」に焦点を当てる。

道徳性や道徳的実践力という内面的な力や内面的資質を育てるのが道徳教育、道徳の時間。将来出会うであろう様々な場面、状況においても、道徳的価値を実現するための適切な行為を主体的に選択し、実践することができるような内面的資質。



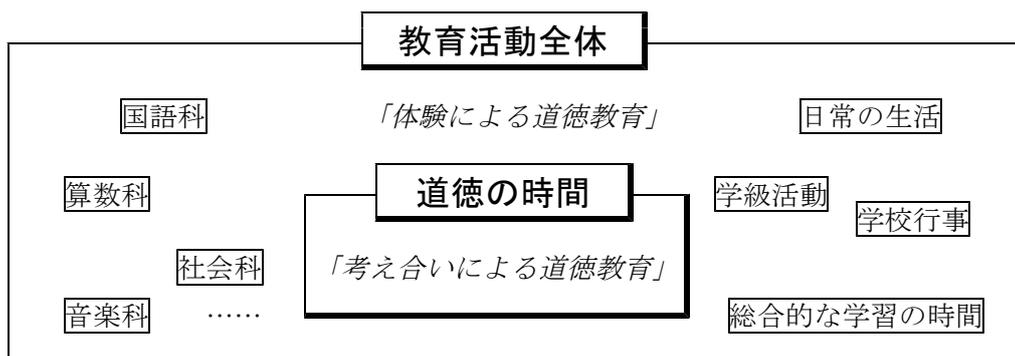
内面の力を育てることで、自立した一人の人間に。

※ 「行い」の指導においても、心の育ちを考えなければ他律的・受動的な指導となり、「先生が言うから」「お母さんが言うから」「何だか分からないけれど」などとなり、自立につながらない。

(2) 道徳教育と道徳の時間

- 「体験による道徳教育」＝「教育活動全体で行う道徳教育」と、「考え合いによる道徳教育」＝「道徳の時間」で道徳性を育てる。

体験のしっばなしや机上の話合いではなく、「体験」と「考え合い」を繰り返すことが、子供の心を育てる。当然、「体験」による豊かな心のため込みがあるからこそ、道徳の時間の「考え合い」が深まり、その深まりが、具体的な実践へとつながる。



- ◎ 「教育活動全体での道徳教育」と「要（かなめ）としての道徳の時間」がつながっていることが重要。→ 全体計画や年間指導計画の実質化が大切。

2 道徳の時間の授業作り

(1) 授業研究を通して

- 道徳の時間の授業研修は、授業改革である。

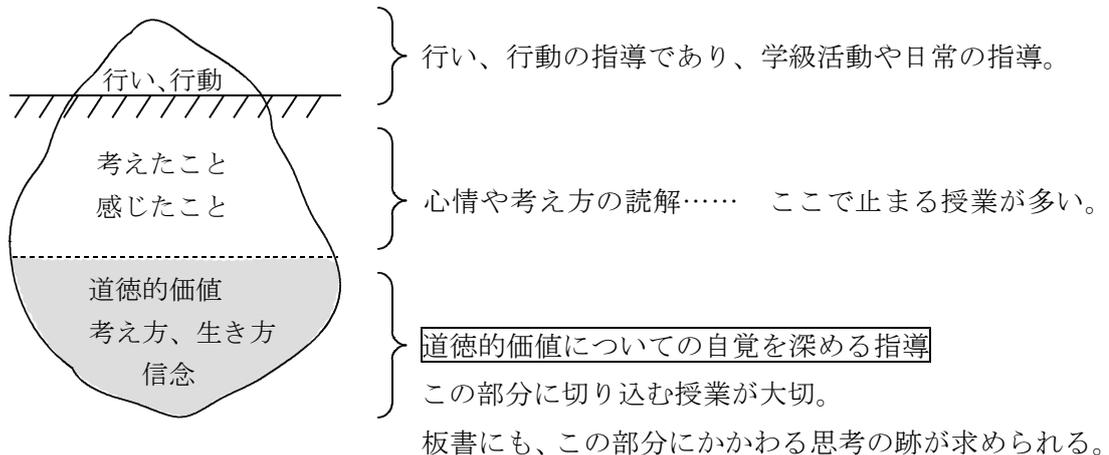
「一方的に伝える授業」 → 「考えさせる授業」 への変革がキーポイント

- 目指したい道徳の授業

- 思わず、ぐっと考えたくなる授業
- 隣の友達と話したくなる授業
- 初めて考え、気付いたことのある授業
- 子供たちが発見し、手柄となる授業

- 生きることに希望や意欲がもてる授業
- 夢や勇気がもてる授業
- 自分に自信がもてる授業

氷山に例えると……



(2) 全校体制で取り組むために

- 大切にしたいこと

- 教育委員会と校長の、道徳教育推進や道徳の授業改革に向けての強い意志。
- 授業をひらくこと。「授業」を中心とした研修は、楽しく、具体的で実感が伴う。お互いに授業を公開し、見合うことで、よりよい実践に向けた取組となる。
- 事前、事後の研修を合同で行う研修。校内、小・中合同、地域の異校種合同など。
- 道徳教育推進教師の活躍。地域の推進教師同士のネットワークと教育委員会の支援。
- 学校外からの講師や助言者によって、多面的な見方が広がる。
- 道徳通信、道徳授業クチコミデータベース、環境作りなど。

- 道徳の授業研究に、全校で取り組んだ成果

- 生徒理解が進んだ。（すべての生徒が活躍できる）
- 数学の授業が変わった。（教科の授業が劇的に変わる）
- 職員室に道徳の話題が出る雰囲気が出た。道徳の時間がうまくいかなかったことなどが、自由に話せる雰囲気が生まれてきた。

- 生徒が道徳の時間を楽しみにするようになった。
- 学級経営が充実し、学習態度や学力向上につながった。
- 子供たちが自立へと向かい、生徒会などの特別活動が充実した。

3 養成段階での取組

(1) 本学の教育課程

科目名 (いずれも2単位)	時期	対 象	免許必修
道徳指導法 (初等)	3回生前期	小学校教諭免許	○
道徳指導法 (中等)	3回生後期	中・高等学校教諭免許	○(中学)
道徳・特別活動論	3回生前期	養護教諭免許	○
道徳実践演習 (つくろう! 道徳授業)	4回生前期	希望者	選択

※ 多い学生で、三つの授業を受ける。

(2) 実際の授業

○ 道徳指導法 (初等)

「道徳教育とは何か、道徳の時間とは何か」「道徳性の発達」「道徳教育の歴史」
「道徳の時間の実際」「道徳の時間の発問と教材」「道徳の時間の展開と学習指導案の書き方」「道徳の時間の学習指導案づくり ～展開案～」
「道徳の時間の学習指導案づくり ～「思いやり」の発達段階を考えた指導案～」
「道徳の時間の板書」「道徳教育全体計画と年間指導計画」「道徳教育と『心のノート』」

【本授業において大切にしていること】

- ・ 道徳教育や道徳の時間についての正しい理解と道徳授業のイメージづくり。
- ・ 道徳教育や道徳の授業に自信をもち、楽しく指導できる学生を育てる。
- ・ 道徳性の発達を子供の姿や関わり方と関連付けて指導する。
- ・ 道徳授業のビデオの活用する。 ・ 段階的に丁寧に学習指導案を指導する。
- ・ 道徳の時間の板書づくり、年間指導計画づくりなど、現場で役立つ内容を扱う。

○ 道徳実践演習 (つくろう! 道徳授業)

「道徳の内容の1～4の視点の代表的な読み物資料の学習指導案作り」「自作教材作り」

【本授業において大切にしていること】

- ・ 道徳の内容の1～4の視点の特徴や発達の段階を押さえて道徳の時間の学習指導案が確実に書けること。
- ・ 道徳の教材づくりを通して、道徳の時間のねらいや資料を分析する力を育て、指導のポイントを見つけることができるようになること。
- ・ 道徳の時間の指導に自信が持てること。

○ 学生の感想

- ・ 低学年だと教師は社会性のモデルを、高学年だと生き方のモデルとなれるよう、自分自身も児童のモデルとしてしっかりと生きていきたい。

- ・ 道徳教育は、すべての教育活動において行われる。教師の言葉遣いや態度などがそのまま教育になることがこの授業でよく分かった。
- ・ 道徳の時間は、教師の用意した答えや正しいとされる考え方を探す時間ではなく、児童自身が経験や思考を基に、自分にとって新しい考え方やなりたい自分を見つける時間だと思った。
- ・ 道徳の発問の仕方が分かった。状況理解を問うのではなく、心の中のいろいろな考え方や思いが出るところを問うこと、答えが一つにならない問いをすることなどの大切さが分かった。また、児童から返ってくる意見を予想しておくことや何を考えさせたいのかを明確にもつことが大事だと思った。
- ・ 道徳の時間は、氷山の下の部分の、自分の生き方について考える時間であることが分かった。
- ・ 学習指導案をこんなに細かく指導してもらったのは初めてだった。大変だったが、勉強になった。どのような発問をすれば意見がたくさん出て、学びを深めることができるのかを、授業者はしっかりと考えなければならない。授業の上手な教師は、児童の意見を取り上げ、みんなで考えさせ、整理しながら授業のねらいへと近づいていくことが分かった。
- ・ 板書をするときに、児童の発言をただ書くのではなく、見て分かる板書を計画的に書くことが大切。記録のためだけでなく、子供とともに考える「思考の場」であり、授業の振り返りができる板書にしたい。
- ・ 自分が小学校時代に学んだ道徳の時間と全然違ったので、授業の進め方をイメージとしてとらえることが難しかった。授業のビデオを見たのが、とても役立った。道徳の時間は、児童が心を成長させるための大事な時間であることが分かった。
- ・ 昔は、特別活動と道徳とは、同じものだと思っていたが、大きな違いがあることが分かった。道徳の時間はよく削られた覚えがあるが、人間性を育てるためにとても必要だと感じた。
- ・ 教師が教え込むのではなく、児童が自ら気付いていけるようにすることが大切なのだと学んだ。自分は、先生の話や授業や感想を書くだけの授業を受けてきたが、本当は、みんなでしっかりと考えていくと、とても面白い授業になることが分かった。
- ・ 教師と子供とが一对一のやりとりをする授業ではなく、子供同士が意見を交換しながら進められる授業にしていきたい。児童から出た意見を周りの児童にも投げかけ、クラス全体で考えることができるようにしたい。
- ・ 教師が解説をする授業ではなく、子供の発言をその子や周りの子供に問い返し、子供自身が考えを深められるようにしていくことが大切だと分かった。
- ・ 教育活動全体が道徳教育なので、道徳の時間は、教科などともつながらなければならないと思った。
- ・ 各教科でも、発達段階を考慮して……という記述があったが、道徳では、それが顕著に表れているように思った。「思いやり」一つを取り上げても、発達の段階で子どもたちに学ばせたい道徳の内容は違うことが分かった。
- ・ 思いやりの心は、自分が今まで思っていたよりも、ずっと深く温かくなれるものだったことが発見でした。自分も、人として成長しなければいけないと思った。

現場の教員も学生も、道徳教育の大切さを強く感じ、よりよい授業ができるようになりたいと思っている。みんなで取り組むチームや雰囲気を作ることが大切。